



入浴剤と耳せん

村上しいこ

プロフィール

04年『かめきちの おまかせ自由研究』で当協会新人賞受賞。今年は、絵本や『わがままおやすみシリーズ』『幸福3丁目商店街シリーズ』の続編出版予定。

有人のパパは、インターネットで物を買うのがしゅみです。しかも、『メガネ型一人用テレビ』とか、『自動背中かき付きイス』とか、へんな物ばかり。

「なあ、これどう思う？ 入浴剤」

届いたばかりのつつみをあげながらパパがいました。

「薬局で売ってるのと、かわんないみたい」

ママが、のぞきこんで答えます。ちがっているのは、箱に書いてあるのが、『別府温泉の湯』とかじゃなく、ひとつには『こどものじかん』、そしてもうひとつには『大人の時間』と、と書いてあったことです。

「あれ？ これは、なんに使うんだろ？」

パパが手のひらに置いたのは、どう見てもフツーに耳せんです。説明書ありません。

「まあ、いっか。お風呂にもぐるときにでも使うんだろ」

さて、さっそくその夜、有人とパパは、『こどものじかん』の入浴剤を、お風呂に入れてみました。

するとどうでしょう。お風呂につかったとたん、パパが

水をとばしてきました。

「ひゃっ。つめたいよ」

有人がもんくをいっても、パパは平気。

「よし、もぐりっこしよう」

と、ぶくぶくしずんでいきました。

いつもなら、お風呂であそんじゃいけないよ、っていうくせに、ちよっとへんです。

(入浴剤のせいかなあ)

「よし、じゃあばくも」

有人は、もぐってるパパにのっかりました。

「うわあっ、やめ……ブクブク……こらっ……ブクブク」
たっぷりあそんだせいで、お風呂からでたパパは、もうぐったり。

「つかれをとるためのお風呂が、よけいにつかれちゃったよ。あの入浴剤は、ちよっとキケンだね」

としばらく横になっていました。

さて、つぎの日は、『大人の時間』という入浴剤をおふ